

世界肝炎連盟と 世界肝炎デー

チャールズ・ゴア
世界肝炎連盟 会長



英国C型肝炎トラストを 創設した経緯 ①

- 私は1995年にC型肝炎、1997年に肝硬変と診断された。
- C型肝炎について、信頼できる情報やサポートを提供する適切な団体を見つけることができなかった（C型肝炎に関連したNGOが英国にはなかった）。
- 1999年に、C型肝炎患者4人で英国C型肝炎トラスト*を設立することを決意。（*日本の財団法人に相当）
- 私はただ理事の1人になるつもりだった。

英国C型肝炎トラストを 創設した経緯 ②

- 英国C型肝炎トラストは2000年10月に、正式な非営利団体として英国政府から認定された。
- 他の3人の創設者が、私が最高責任者になるよう依頼。
- 私は2001年および2002年にインターフェロン療法によってC型肝炎は治癒したが、1型糖尿病を発症した。
- 英国肝炎トラストは現在18名のスタッフ、3つの事務所を有している。

ヨーロッパ肝臓患者協会 設立の経緯

- 2003年、欧州各国のC型肝炎患者会が、ベストプラクティス（成功事例）などの情報を共有するための会議を開催。
- イタリア、フランス、ドイツの患者会が、ヨーロッパ肝臓患者協会（ELPA）の設立を決定。英国で唯一の肝炎関連団体として英国C型肝炎トラストのELPA加盟が要請された。
- 2004年のELPA設立時に、私が同協会の代表になるよう依頼され、非常に驚いた。
- ELPAは、10月1日を欧州の「肝炎啓発デー」として制定。
- ただし、欧州地域以外の患者会からは、「肝炎啓発デー」参加の同意が得られなかった。
- 2006年に、2年間の会長の任期が終了。

世界肝炎連盟 – 設立の経緯

- **2006年の世界の状況** – 肝炎患者は非常に多く(感染者が最大5億人)、死亡数も多い(年間100万人以上)。にも関わらず、肝炎に対する意識は著しく低かった。当時、肝炎は世界保健機構(WHO)の優先課題ではなく、WHOには肝炎を専門とする職員もいなかった。
- **2007年** – 世界の肝炎患者会の代表者を召集して会議を開催。肝炎が、HIV/AIDS(患者数4000万人未満、年間死亡者数200万人)、結核やマラリアと同じように重要な問題として認識され、対策が講じられることを目指して、「第1回世界肝炎デー」の開催を決定。
- **2007年12月** – 各国の肝炎患者会を統括する機関として、世界肝炎連盟(WHA)を設立。
- 世界肝炎連盟の役割を、単なる啓発活動にとどまらず、アドボカシーにまで広げていくことを決定。



世界肝炎連盟 – 活動分野

啓発活動

世界肝炎デー
毎年7月28日



Hepatitis does not discriminate by age, race, occupation or background.

Know it. Confront it. Get tested.

This is hepatitis...

World Hepatitis Day July 28 2012
www.worldhepatitisalliance.org



国家政策に関する活動

加盟患者会のある国



世界の政策に関する活動

WHOの決議と
世界的アプローチ



世界保健機構



第1回世界肝炎デー 2008年5月19日

- 12人に1人が肝炎ウイルスに感染していることからテーマを“*Am I Number 12?*”(私は12番目?)とした
- 同じ日に47カ国で300のイベントを開催
- 1200回の報道
- 1.5億人に訴える
- WHOがジュネーブでの記者会見に出席し初めて関与する



世界肝炎連盟の啓発活動

- 世界肝炎デーがWHOの公式行事となるまでは、多くの国の政府は参加を拒否した。
- また、WHOの決議が必要だが、既にたくさんの「疾患デー」があるため不可能だと言われた。
- その解決策として、世界肝炎連盟とその加盟国は18カ月にわたって主張を続け、2009年にブラジル、オマーン、中国、アフガニスタンで、肝炎をWHOの議題とさせた。
- 世界肝炎デーをWHOの公式行事として認めるための決議案をブラジルがWHO総会に提出。
- 世界肝炎連盟は各国政府が支持できるように、採択に向けて決議案の修正を繰り返した。



世界保健機構 第63回総会決議 「WHA63.18」

- 私は2010年、WHO執行理事会および世界保健機構総会の双方に対して、決議案を採択するよう働きかけた。
- 世界肝炎連盟とWHOによる、加盟193カ国の肝炎政策に関する調査が、2010年5月に公表された。
(調査結果はwebsiteに掲載 www.worldhepatitisalliance.org)
→80%の国が、ウイルス性肝炎は公衆衛生上の喫緊の課題であると考えていることが明らかになった。
- 2010年5月、世界保健機構 第63回総会にて決議「WHA63.18」が採択された。
- 決議をもとに7月28日が「**世界肝炎デー**」に制定された。
WHO公式の疾患デーとしてはHIV/AIDS、結核、マラリアに次いで4番目。



世界肝炎デー 2012

各国共通の活動 ①

- 行動が必要なことを強調するため、“**It’s closer than you think**(あなたが考えているよりも近い)”というコンセプト
- 65カ国以上が参加予定
- Facebookアプリ(現在利用可能)
- キャンペーンビデオ
- アフリカでのSMS(携帯電話ショートメール)を活用したキャンペーン
- WHOと地域事務所の活動(例:肝炎スクリーンセーバーが2000人のEMRスタッフ全員のPCに表示される)



This is hepatitis...
Know it. Confront it. Get tested.

World Hepatitis Day: 28 July
www.worldhepatitisday.info



世界肝炎デー 2012

各国共通の活動 ②

- 世界的な肝炎への無関心を強調する
三猿（「見ざる、言わざる、聞かざる」）のコンセプト
- ギネス世界記録への挑戦
7月28日に、1日で最も多くの人
が同じ「三猿」のアクションをする
- 三猿のアクションをする人の写真を
Twitterに掲載するキャンペーン



Don't ignore it. Hepatitis is a potentially fatal disease that affects 1 in 12 people worldwide, but there are rarely obvious symptoms.

This is **hepatitis...**

Know it. Confront it. Get tested.

World Hepatitis Day: 28 July
www.worldhepatitiday.info



世界保健機構 第63回総会決議

「WHA63.18」

- 決議の3.1条では、「世界肝炎デー」設立を定めたのみならず、WHO事務局長に対して、加盟国と協力して、ウイルス性肝炎の監視、予防、管理に必要なガイドラインの策定、各国の肝炎対策戦略の策定、期限付きの政策目標の設定、ツールの確立を求めている。
- 決議には以下のことが含まれる。
 - 世界的な肝炎対策戦略の策定
 - 世界の各地域での肝炎対策戦略の策定
 - 各国における肝炎対策戦略の策定



WHOの「世界肝炎戦略」概要

WHOの成果		各国の貢献		
戦略の柱	WHOの成果	国内の基本的活動の枠組み		成果/インパクト
		計画	結果	
1. パートナーシップ、動員、コミュニケーション	世界肝炎デーのサポート	肝炎デーの活動	・意識の向上 ・差別の撤廃	
	協力機関のネットワーク	優れた機関		
	市民社会との協力	国内の患者会		
	リソースの動員戦略	資金計画		
	外部に対するコミュニケーション戦略	IEC戦略		
2. 政策と行動のデータ	疾患の負担の推計	負担の推計	・エビデンスに基づく、費用対効果に優れた政策・計画の策定	・新規感染者の割合の低下 ・肝炎の進行による死亡者の減少
	インパクトの評価ツール	全国的な血清検査		
	監視およびアウトブレイク調査の標準化	センチネル検査の実施施設		
	国別プロフィール	MoH(保健省)との調整		
	研究課題	国内の研究課題		
3. 感染拡大の予防	A型、B型、E型予防接種の解説とツール提供	EPI計画とSOP	・予防接種実施率の向上 ・安全なケア ・安全な性交渉 ・害の軽減	・慢性肝炎患者のQOL向上 ・肝硬変および肝細胞癌による死亡者の減少
	安全なケアの標準化とツール提供	BBV予防計画		
	注射薬物使用者のための害低減ツールの提供	注射薬物使用者ケアプログラム		
	安全な食物と水に関する戦略	食物の水の安全		
	安全な性交渉の解説	保健事業の推進		
4. 検査、ケア、治療	検査とカウンセリングのリソースパッケージ	全国的な検査計画	・感染患者の発見と、ケア・治療の提供	
	診断基準	検査施設のSOPとネットワーク		
	B型、C型のケアおよび治療のガイドライン	全国的なケア政策・計画		
	医療従事者のための研修パッケージ	全国統一のカリキュラム		
	治療と薬剤への公平なアクセス	必要な薬剤		

WHO 世界の各地域の肝炎戦略策定に向けて

- 汎米保健機構 – 3月にコロンビアで会議を開催。2012年9月の地域委員会でプレゼンテーションを行うため、戦略案を準備中。
- 東南アジア地域のWHO事務所 – 4月と7月にインド・デリーで会議。2012年9月の地域委員会でプレゼンテーションを行うため、戦略案を準備中。
- 欧州地域のWHO事務所 – 2013年に戦略案を作成し、2013年9月の地域委員会でプレゼンテーションを行う予定。
- 東地中海&アフリカ地域のWHO事務所 – 現在、協議中。
- 日本が所属する西太平洋地域のWHO事務所 – 活動なし。未だ肝炎を重点課題にしていない唯一の地域事務所。



国別の戦略

- **スコットランド** – C型肝炎の行動計画を策定済み。現在は50%以上が検査を受診。治療率の150%増加を目指す（B型肝炎含む）。
- **フランス** – C型肝炎対策の国家戦略を策定し、後にB型肝炎を含める形に改定。現在はウイルス性肝炎の戦略。
- **米国** – 新たなウイルス性肝炎の戦略を発表。
- **オーストラリア** – 最初はC型肝炎対策の国家戦略を策定、後にB型肝炎対策の国家戦略を策定済み。
- **クロアチアとブルガリア** – ウイルス性肝炎対策の国家戦略を作成開始したと発表したばかり。



各国の国家肝炎対策戦略

肝炎アライアンスの12の要請

1. 疾患に対する認識向上、偏見の軽減、予防の促進に取り組む継続中のキャンペーンの焦点として、世界肝炎デーを宣伝する。
2. 政府の戦略を全国的に主導する責任者を任命する。
3. 世界保健機関が推奨する政策、戦略、ツールを利用して、スクリーニング、診断、紹介、治療に対する総合的アプローチを作成する。
4. 検診率を上げてB型およびC型慢性肝炎と診断される人の数を増加させる。
5. 期限付きの政策目標に基づいて、肝炎関連の死亡を減少させる取り組みを行う。
6. 監視を強化し、全国統計を公表する。
7. 政策の設計や実施において、患者会と継続的に協議する。
8. プログラムの設計・実施において、世界でのベストプラクティス(成功事例)を検討する。
9. 妥当な費用による匿名検査の機会を提供する。
10. 国の予防接種プログラムに、出生時接種を含むB型肝炎ワクチンを組み込む。
11. 安全な注射法の促進および実現、血液および血液製剤の安全性強化など、安全な医療に取り組む。
12. 移民や弱者の保護、診断、治療を強化する。

各国の国家肝炎対策戦略 重点テーマ

- 2010年のWHO執行理事会と世界保健機構の総会において、検診と診断が重要性に基づき、「世界肝炎デー」を公式化することが協議された。
- B型肝炎およびC型肝炎においては、検診を受けていないために、感染の事実を知らない人が多く、2013年「世界肝炎デー」ではこの点がフォーカスされる予定。
- B型肝炎においては、検診を受けなければ、肝細胞癌のモニタリングおよび予防ができない。
- C型肝炎の新薬の開発が急速に進んでおり、検診を受けることこそが、治療率の向上やさらなる感染拡大の防止につながる。



日本の肝炎分野における これまでのリーダーシップへの感謝

- 2002年以降、全国で肝炎検査プログラムを無料で実施。最初の5年間で10万人の感染を検出。
- 2009年12月に肝炎対策基本法が成立。2010年4月に治療に対する医療費助成が強化された。
- 7月23日の第8回肝炎対策推進協議会で発表された全国肝炎実態調査の結果は、今後の行動の方向性を示すものである。
- 7月18日に肝炎特別大使および実行委員会委員長を任命し、世界肝炎デー2012の「**三猿のアクション**」によるギネス世界記録への挑戦をサポート。日本では7月28日にサッカースタジアムやその他全国各地でイベントが開催される。



ウイルス性肝炎について日本に残る課題

- 日本では300～370万人がウイルス性肝炎に感染し、そのうち50～70%は検査を受けたことがないため感染を自覚していない。
- 多くは60歳以上のため、時間に余裕がない。
- 検査を受けて、肝炎であることを知っている人の85%は、まだ治療を受けていない。
- 日本では毎年3万人を超える人が肝細胞癌や肝癌で死亡する。
- 最近の新薬の開発により、より高い治癒率と治療期間の短縮が期待されている。しかし、まず検査を受けない限り、新薬による治療の恩恵は受けられない。



日本のさらなるリーダーシップへの期待

- **国内でのリーダーシップ**: 日本の国家肝炎対策戦略の策定。疾患の認知度、検査受診率、予防接種率、治療率の向上について数値目標を考慮すべき。さらに、肝炎研究の助成を推進すべき。
- **アジアでのリーダーシップ**: 西太平洋地域のWHO事務所では、地域の肝炎対策戦略を策定し、それを推進する中心人物がまだ任命されていない。日本は資金提供や専門家派遣を行うことができるであろう。
- **世界でのリーダーシップ**: WHO世界肝炎対策戦略のサポート。日本の過去10年間における実績があり、他国が参考とする成功事例になりうる。



日本滞在中の主な活動

日本のリーダーシップを称えて、世界肝炎デー2012に活動する場所として、WHO加盟194カ国の中から日本を選んだ。

7月26日(木)

- 患者とのミーティング
- メディア向け記者会見
- 専門家とのミーティング

7月27日(金)

- 日本医療政策機構の朝食会セミナー
- 超党派の国会議員向け勉強会
- 企業との昼食会
- 政府高官との会合

7月28日(土)

- 日本肝臓病患者団体協議会フォーラムでのスピーチ(於 JICA)
- サッカースタジアム(横浜・日産スタジアム)でギネス世界記録イベントに厚生労働大臣と共に参加



ご清聴ありがとうございました

